

## 犬および猫の臨床例に安全な全身麻酔を行うためのモニタリング指針

### 獣医麻酔外科学会 麻酔・疼痛管理専門部会

全身麻酔管理の目的は、「全身麻酔下の動物の安全を守る」、「検査や手術が円滑に進行する場を提供する」ことにある。したがって、麻酔を担当する獣医師は、麻酔深度を適切に維持すると同時に、動物の呼吸・循環・代謝などを可能な限り正常範囲に維持することが要求される。獣医麻酔外科学会では、全身麻酔中の動物の安全を維持するために、以下の看視（モニタリング）の実施を推奨する。

- 1) 麻酔看視系の配置と麻酔記録：麻酔看視係を配置し、動物の麻酔深度および呼吸循環状態を五感とモニタリング機器によって絶え間なく看視する。動物の状態が変化した場合には、麻酔看視係は麻酔担当獣医師に警告できるようにする。麻酔看視係は麻酔記録に麻酔実施日時、患者情報、投与したすべての薬物名と投与量、および投与経路、そして使用した麻酔器（回路）とガスの種類および流量を記録するとともに、以下のモニタリング項目を定期的（少なくとも5分毎）に麻酔開始時から動物が麻酔から回復するまでの間記録する。
- 2) 五感を用いたモニタリング：全身麻酔下の動物の眼瞼および角膜反射、瞳孔の大きさ、心音と呼吸音、脈圧、心拍数または脈拍数、呼吸数および呼吸様式、可視粘膜の色調、毛細血管再充填時間（CRT）、筋肉の緊張度などを人の五感を駆使して看視する。
- 3) 循環のモニタリング：心拍数（脈拍数）および動脈血圧の測定を行うこと。必要に応じて観血式動脈血圧測定を実施する。心電図モニター、心音、心拍数（脈拍数）、動脈の触診、動脈波形、または脈波（プレスティモグラフ）のいずれかを連続的に看視すること。心調律の看視には心電図モニターを用いること。数値の測定と記録は原則として5分間隔で行い、必要ならば頻回に実施すること。また、必要に応じて尿量の測定と記録を30分ごとに行う。
- 4) 酸素化のモニタリング：可視粘膜、血液の色などを看視する。酸素化と脈拍数を同時に把握できるパルスオキシメータの装着を推奨する。
- 5) 換気のモニタリング：呼吸数、呼吸音、および換気様式（胸郭や呼吸バッグの動きなど）を看視する。動物の気道を確保し、カプノメータを装着することを推奨する。換気量モニターを適宜使用することが望ましい。
- 6) 体温のモニタリング：体温測定を行うこと。
- 7) 筋弛緩のモニタリング：筋弛緩モニターは、筋弛緩薬を使用する場合になど必要に応じて行う。
- 8) 麻酔回復期の動物のモニタリング：全身麻酔薬の投与終了後に呼吸循環状態が安定した動物を麻酔看視係が連続的に看視できない場合には、自力で頭を支持できるようになるまで、定期的（少なくとも5分毎）に動物の状態を確認する。